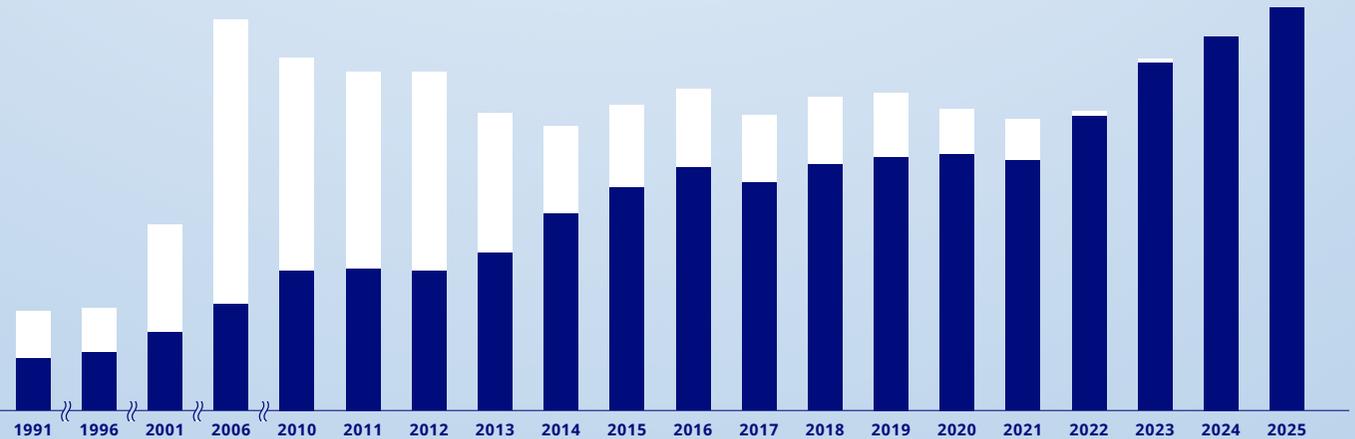


Our History

売上高の推移

■ 医療事業以外の事業
■ 医療事業

(注) 2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
2020年3月期および2021年3月期は映像事業、2022年3月期および
2023年3月期は科学事業、2024年3月期は整形外科事業の売上高を除く
継続事業の金額を表示しています。



1919年～1950年代

創業と経営近代化への道

1960年～1980年代

光学総合メーカーへの
発展、海外販売拠点の拡充

1990年～2010年

医療事業の多角化

2011年～2018年

原点回帰による
経営再建ステージ、
そして持続的発展ステージへ

2019年～2022年

真のグローバル・
メドテックカンパニーへ

2023年～

グローバル・メドテック
カンパニーとしての成長

1919
「株式会社高千穂製作所」として
創立 (顕微鏡の国産化を目的)

1920
当社初の顕微鏡「旭号」発売

1921
商標を「オリンパス」として登録

1936
当社初のカメラ「セミオリンパス」発売
(カメラ事業に参入)

1949
社名を「オリンパス光学工業」と改称
東京証券取引所に株式上場

1950
世界で初めて実用的な胃カメラを開発

1964
欧州現地法人設立

1968
米国現地法人設立

1979
カリフォルニア州に米国拠点設立
(現 北米最大の医療修理サービス拠点)

1989
中国北京市に駐在事務所、
シンガポールに現地法人設立

2001
テルモ (株) と提携

2008
中国 (上海) に初の
トレーニングセンター設立
英国Gyrus Group PLC社を買収
(医療事業における外科領域を強化)

2011
過去の損失計上の先送り発覚

2012
新経営体制が発足
ソニー (株) と業務・資本提携
情報通信事業を譲渡

2016
医療用内視鏡関連の開発・製造拠点
(会津・白河・青森) を増強 (新棟竣工)

2018
「私たちの存在意義」
「私たちのコアバリュー」からなる
経営理念を発表

2019
企業変革プラン
「Transform Olympus」/
経営戦略発表

2021
映像事業を譲渡
オランダQuest Photonic Devices社、
イスラエルMedi-Tate社を買収

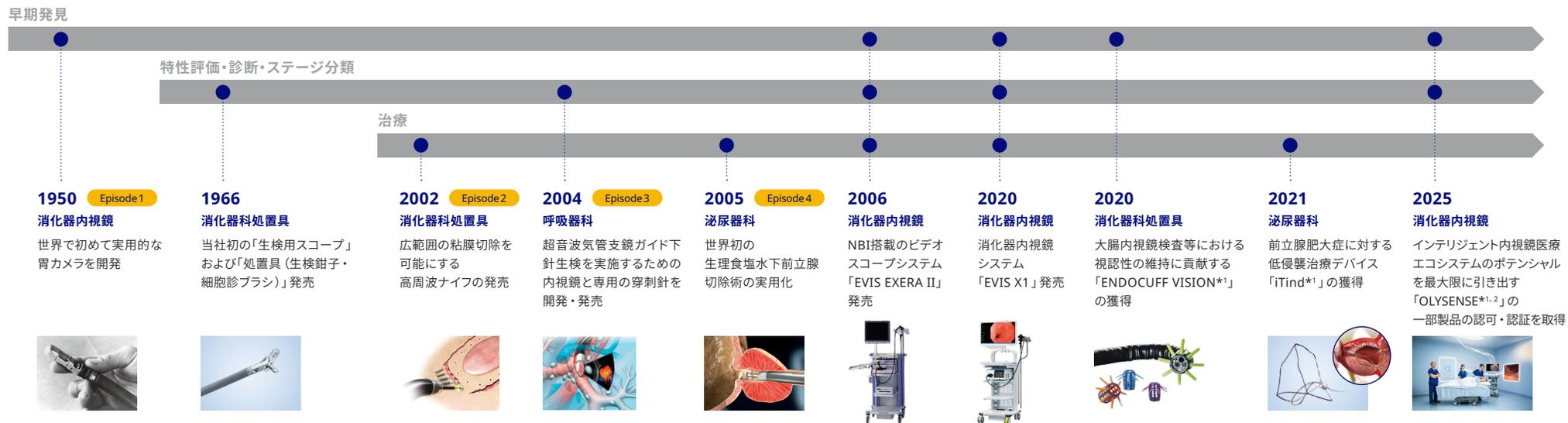
2022
英国Odin Vision社を買収

2023
科学事業を譲渡
経営戦略発表

2024
整形外科事業を譲渡
「私たちのコアバリュー」を改定

2025
合弁会社Swan EndoSurgical, Inc.
へ出資

ケア・パスウェイの強化とソリューションの歴史



*1 医薬品医療機器等法承認品など、一部地域における承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております

*2 OLYSENSEはオリンパス株式会社および/またはそのグループ会社の商標です。すべての商標、ロゴ、ブランド名は、それぞれの所有者に帰属します

Episode 1

消化器内視鏡

世界で初めて
実用的な胃カメラを開発

1949年、「日本人に多い胃がんをなんとか治したい」という東京大学附属病院・小石川分院外科の宇治達郎医師からの依頼で、オリンパスの技術陣が胃カメラの開発をスタートしました。胃の中を明るく照らす超小型電球、広い範囲を映し出す広角レンズ、フィルム巻き取り装置、体内に挿入する蛇管部分の素材選びなど、さまざまな要素技術の開発を重ね、1950年に試作機の開発に成功、2年後の1952年には製品化し、販売を開始しました。その後も、医師との二人三脚で機器の改良は急ピッチで進み、消化器疾患の診断術も飛躍的に発達しました。

Episode 2

消化器科処置具

EMR (内視鏡的粘膜切除術) / ESD
(内視鏡的粘膜下層剥離術) 手技の確立

1980年代には、医師とオリンパスの共同開発により、EMRが実用化されました。早期の胃がんや大腸がんなどの病変組織と正常組織の間に、生理食塩水を注射して膨らませ、スネアで病変を切り取る内視鏡治療であり、開腹手術に比べて患者さんへの負担が少ないのが特徴です。処置具の発達により、2002年にはより広範囲の早期病変を切り取ることができるESDも登場しました。オリンパスは医師の要望に応え、ESD/EMRの手技をサポートする多様な処置具を開発しています。

Episode 3

呼吸器科

より低侵襲で診断能力の
高い診断法の確立

気管支壁外のリンパ節に気管支鏡を使って針を刺し、吸引生検で肺がんのステージ診断をする方法(TBNA)があります。以前は、この手技は針の先端が確認できない状況で実施されていました。オリンパスは、この手技に超音波内視鏡を使いたいという医師からの要請に応え、多くの検討と試作品の製作を重ね、2004年に超音波気管支内視鏡で針の先端を確認しながらTBNAを実施するための内視鏡と専用の穿刺針を開発・発売しました。これによって、EBUS-TBNA (超音波気管支鏡ガイド下針生検) という手技が普及し、低侵襲で高い診断能力を持つリンパ節転移診断法の実現に貢献しました。

Episode 4

泌尿器科

世界初の生理食塩水下
前立腺切除術の実用化

2005年、肥大した前立腺を切除するTURIS (生理食塩水下前立腺切除術) という新しい術式が医師により開発され、オリンパスは世界で初めてTURIS専用の内視鏡切除ループ、切除用の高周波電流を制御する高周波電源装置を開発しました。TURISでは、生理食塩水を介して電極全周を放電させて切除するので、従来よりも安定した高い切れ味を実現したことに加えて、使用する生理食塩水は従来の非電解溶液より安価であるなど、コストも抑制できる術式となっています。